

おおた教育ビジョン

学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させる。

学校の教育目標

- 元気な子 ○考える子
- がんばる子 ○やさしい子

保護者・地域

家庭・地域の実態
保護者・地域の期待や願い

学校経営方針(学力向上にかかわる要点)

○授業改善推進プランの実施を徹底し、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得し、活用能力を高める。

各教科の指導の重点

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 体験的・問題解決的な学習を重視するなど、学習指導方法の工夫・改善に努める。

基礎基本の定着

- ・朝学習・補習教室を週計画で位置付ける
- ・家庭学習の励行 ・音読は毎日の宿題

基本的な生活習慣の定着

- ・「大三小10のやくそく」学習規律の確立
- 低学年・中学年・高学年に応じたプランを作成しプランの実行を月ごとに振り返る

道徳教育の指導の重点

- 思いやり・親切、友情・信頼、助け合い、礼儀の指導に重点をおき、「やさしい子」の育成を図る。
- 感性や情操をはぐくむ体験的な活動との関連を図り、道徳の時間の充実を図る。

生活科、総合的な学習の時間等の指導の重点

- 人とのかかわりを活かして自ら学ぶ活動を推進する。
- 地域と連携して指導の充実を図り、さらに人とのかかわりを通して地域への愛着心を育てる。
- 各学年の児童の興味・関心に基づいた課題解決能力を高める活動を展開する。
- 各学年とも、外国語活動に取り組み、コミュニケーション能力の育成を図る。

本校の考える「確かな学力」

- 学ぶ意欲
- 問題解決能力
- 表現する力
- コミュニケーション能力
- 知識・技能の定着
- 生活に活かす力

特別活動の指導の重点

- 学校生活をより明るく楽しくするために豊かな体験等有意義な活動になるように工夫する。
- 縦割り班活動による異学年交流や集会活動やふれあい活動を通して、友達と協力してよりよい学校生活を築こうとする意欲を高め、自主的・実践的態度の育成に努める。

生活指導の重点

- 全職員の共通理解で指導にのぞむ
- 基本的な生活習慣の徹底
- 規範意識の向上
- 安全意識の向上
- 環境に配慮する子供を育てる

本校の授業改善の視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> * 問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、児童の主體的な活動を引き出す指導法を工夫する。 * 地域を活かした教材を用いたり、外部講師を招聘したりする授業を多く取り入れる。 * 児童の習熟の程度や興味・関心等に応じた個別指導と少人数指導を推進する。 * 各教科を通して、自分の思いや考えを深め、適切に表現する能力の育成を図る。 * 生活に活かせる国語力の向上を図る。言葉や語彙の指導に重点を置く。 * 大田区漢字検定を活用し、漢字の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 授業時間を確保し補助的な指導で基礎基本の定着、学ぶ意欲、表現力、思考力を培う。 * 読み聞かせ、読書活動を計画的に取り入れ、豊かな感性の育成や知識と読書習慣の定着を図る。 * 週ごとの指導計画による計画的な指導の完全実施と時数確保に努める。 * 補習教室(放課後・土曜日)を実施し学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 確かな学力向上を目指した国語の授業づくりに取り組み、効果的な指導法を研究する。各学年1回の研究授業と協議会を行い、授業力の向上を目指す。 * 特別支援教育に関する研修を実施し、ユニバーサルデザインに基づいた授業設計を推進する。 * 教育相談研修や校内指導体制の充実により、児童理解の深化を図り、学習支援能力の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> * 学習指導要領を踏まえ、年間指導計画に基づく、評価規準・評価計画の改善・活用を図る。 * 校内研究の地域教育連絡協議会への公開や学校公開等の参観を通して外部評価を受け、改善に活かす。 * 評価結果の公開や改善策について学校だよりやホームページ等で情報公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 学校支援地域本部(スクールサポートおおさん)の協力を得て、地域の人材を活用した授業やわくわくスクールを推進する。 * 基本的な生活習慣や家庭での過ごし方(生活リズム・家庭学習等)の定着のために、より密接な家庭や地域との連携を図る。 * 区・PTA・地域行事等において児童の活動発表を積極的に推進する。 * 保・幼・小・中の情報交換や交流活動を深める。

令和3年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「話す聞く」の力が付いてきて、話の中心や、考えの相違点や共通点に気付きながら話が聞けるようになった。
- ・物語文の読解力が身に付いてきている。
- ・読書活動により、言葉の力が付いてきている。

(2) 課題

- ・習得した文字を活用できるようにする。
- ・条件や設定された課題に即して文章を書く力を付ける。
- ・文の構成（主語、述語、修飾語、指示語）を正しく理解し、活用できるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	目標値より高い 区平均正答率よりやや高い 全国平均正答率より高い		
第5学年	目標値よりと同等程度 区平均正答率より低い 全国平均正答率よりも低い	目標値よりも低い 区平均正答率より低い 全国平均正答率よりも低い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりやや高い 区平均正答率より低い 全国平均正答率よりも低い	目標値と同程度 区平均正答率より低い 全国平均正答率よりも低い (第5学年時)	目標値よりも低い 区平均正答率より低い 全国平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字やローマ字の読み書きは積極的に学習しているが、力の定着では二極化が見られる。語彙の量と質を充実させ、日常的に使えるようにすることが課題である。主語と述語の関係や、修飾語がどこに係るのかを理解し、文章を書く時に正しく表現できるようにしたい。	話の中心に気を付けて聞いたり、互いの考えの相違点や共通点を考えながら、話し合ったりすることができる。説明文では要点に注意して読み取ることが難しい。 書くことでは、自分の考えとその理由や、内容の中心を明確にして事実を伝える問題で、目標値を下回っている。	国語の学習に意欲的に取り組む児童が多いが、苦手意識をもつ児童もいる。 文章を書く問題に対して、無回答の児童が目立った。書くことへの意欲や能力に差があることが分かる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読む力は定着しているが、書く力はやや不十分である。言葉の力は全体的には定着しているが、修飾語の使い方の理解が不十分である。	話し合いの中で、自分の考えをまとめたり広げたりする力が不十分である。説明文の文章全体の構成をとらえる力、要約する力が不十分である。登場人物の心情等をとらえながら物語文を読む力は十分定着している。	個人差が非常に大きい。主体性の度合いと、知識・技能、思考・判断・表現といった他の力との関連性も大きい。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を考え、必要な言葉が抜けないように話すことを繰り返す。 ・集中して話を聞くための態度を身に付ける。 ・文の書き方を、ICTを活用して分かりやすく丁寧に指導する。 ・教科書の文を丁寧に読ませ、言葉や表現に着目させ、読み方の基本を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件に応じて、求められていることを文章で表現できるようにする。 ・文字や漢字練習を丁寧に繰り返して、言葉や文にして使えるようにする。 ・MIMを活用し、拗音や促音・撥音の表記や助詞の使い方の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く、書く、読む」の基本を繰り返し指導し、定着を図る。 ・身に付けさせたい力に応じた言語活動を行う。 ・司書教諭と連携して読書活動を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・わからない言葉は辞書を活用して調べるということを習慣化させ、語彙を増やしていく。 ・漢字やローマ字を丁寧に書く指導を行い、文字の定着を図る。 ・タブレット使用時にはローマ字入力で行う。 ・短い文で主語と述語の確認や語句のまとまりを確認して、言葉の意味を理解させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じた話し方を身に付けさせるために、様々な形態で話し合う。相手の意見を聞く時は、話の中心に着目するように指導し、定着させる。 ・説明的な文章では語句や指示語に着目させ、段落の要点に注意して読み取らせる。 ・文章を書く時は、構成や段落分けの仕方などを丁寧に確認してから書き始めることを繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流の場をタブレット内に設けることで、いろいろな人の意見に触れる機会を増やしていく。 ・書く学習では、ワークシートやメモ等を活用して、思考や感情を言葉に表す方法を指導する。 ・司書教諭と協力して、単元で活用できる資料や本を集める。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・漢字の書き取り練習を日常的に行い、小テスト等で確認する。テストでの誤答のみを再度練習させたり、部首別に練習させたりし、練習方法に工夫を加える。</p> <p>・教科書の「言葉」の学習の復習をしたり、それら既習事項を作文の時間に活用させたりし、繰り返し学ぶ時間を設定する。</p> <p>・教科書巻末の付録（言葉の宝箱等）を、授業で活用する。</p>	<p>・話し合い活動では、その意義や必要性を理解させる。振り返りの時間を十分確保し、自分の考えがどのように変化したかを確認させたり、友達の考えの変化を認めたりする活動を行う。</p> <p>・説明文を構成表にまとめるなどし、文章全体が視覚的に見渡せるようにする。要約の学習では、教師の模範解答と自分の要約を比較させ、どこをどのように直せばいいのかを理解させる。</p>	<p>・物語文や説明文の学習では生活との関連付けを行い、学習を身近に感じられるようにする。自身の課題や学習の達成状況を可視化するなどして、意欲的に目標をもって取り組めるようにする。</p> <p>・既習事項を活用する場面ではゲーム性の要素を取り入れるなどし、活用する楽しさを感じられるような工夫を行う。</p>

令和3年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・グラフや資料は、視聴覚教材を用いて考察する時間を確保することにより、読み取る力は定着してきている。
- ・タブレットを用いて調べ学習を行うことで社会科に対する意欲・関心を維持し、学習内容の理解をすすめることができた。

(2) 課題

- ・グラフや資料から読み取ることはできるが、記述で表現する問題につまずきが見られる。
- ・地域→県→日本の項目について学年が上がるにつれて知識・理解の定着につまずきが見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	目標値と同等程度 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも若干低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い（第4学年時）	
第6学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い（第5学年時）	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い（第4学年時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値と同等程度である。記号や用語等の基礎的な知識が身に付いていないことが、資料を正しく読み取れない要因となっている。各単元でおさえるべき知識の習得を確実にする必要がある。	目標値よりも低い。社会的な事象に着目して、調べたことを比較・分類、または関連付けて考えたり、考えたことを言葉で表現したりすることができないことが要因となっている。	資料の数値に着目し、読み取り、活用する力が十分でない。 グラフの数値が正しく読み取れず、それぞれの関連性を見出すことが出来なかったことが要因と考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度より平均正答率は上がっている。しかし、学年が上がるにつれて、学習したことの定着が難しくなっている。社会的な事象を表す用語や意味を理解させ、身近な事象と関連させ定着させる必要がある。	複数のグラフや資料を読み取り課題を解決する問題に対して、目標値に到達していない単元が多い。資料を様々な角度から検討し、言葉で表現する力を付けていく必要がある。	複数のグラフや資料を読み取り記述する問題において無回答が増加する傾向にあった。社会的な事象への関心や社会生活に生かそうとする意識の低さが要因として考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図帳やフラッシュカード等を活用して、地図記号や方位、23区や47都道府県名を繰り返し指導して、知識の定着を図る。 資料から分かることをノートにまとめて共有したり、調べたことを白地図や文などにまとめて発表したりする活動を取り入れる。	学習問題に対する自分の考えや資料から読み取ったことなどを自分の言葉で表現できるようにしていく。そのために、個人で考える時間を十分に確保した後、集団で話し合い学び合うといった思考が深まるような学習形態を工夫する。	ICT機器を活用し、資料提示を工夫する。体験的な活動を取り入れ、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにする。 自分事として捉え、自分たちには何ができるのかを選択・判断することを通して、主体的にかかわっていく態度を養う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT機器を用いて自ら調べ、自らまとめる活動を通して理解を深め、学んだことを映像と結びつけることで身近な事象として知識の定着を図っていく。また、ワークシートを用いて繰り返し学習し、知識の定着を図る。	複数のグラフや資料から比較・関連付けをし、問題を解決する場面を設定していく。また、社会科用語や単元の重要語句を使って、自分の言葉でまとめる活動を多く取り入れていく。	ICT機器を活用し、調べ学習を多く取り入れ、児童に身近な問題として捉えられるようにする。また、学習問題に対して児童が見通しをもち、問題解決的な学習に臨めるように工夫していく。

令和3年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ほとんどの観点・領域において、どの学年も昨年度の数値を上回ることができた。特に昨年度に目標値を大きく下回った「図形」「量と測定」の正答率は大きく改善された。
- ・目標値や区・全国の平均値も上回ることができた。

(2) 課題

- ・正しい立式ができて、計算でミスをしてしまう傾向がある。
- ・式で考えを表現したり、式から考えを読み取ることに課題がある。
- ・発展問題において、問題を正しく把握することに課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	/	/
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)	/
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第5学年時)	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>目標値に対し、12ポイント高い結果となったが、「かけ算」の計算は目標値を下回った。九九の定着が不十分である児童が少なくないため、改善する必要がある。</p> <p>また、示された二次元表から考える活用問題の正答率は他と比べて特に低かった。単元終了後に学習内容を活用したり、復習したりする機会が不足しているため、改善の必要がある。</p>	<p>目標値に対し、23ポイント高い結果となったが、「時こくと時間」や「かけ算」の活用問題は、問題の把握が不十分で答えられない場合が多いため、問題を把握する力を育てていく必要がある。</p>	<p>目標値に対し、17ポイント高い結果となった。概ね良好であるが、計算ミスから正解することができず、良い結果が得られないことが多く、それが意欲の低下につながっていると考えられる。そのため、計算の確実性を上げていく必要がある。</p>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に対し、5年が9ポイント、6年が3ポイント上回っているが、6年は区や全国の正答率を下回っている。	目標値に対し、5年が14ポイント、6年が13ポイント上回っていて、いずれも区や全国の平均値よりも上回っている。	目標値に対し、5年が8ポイント、6年が9ポイント上回っていて、いずれも区や全国の平均値よりも上回っている。
5年は「折れ線グラフと表」「分数」「小数」および計算問題、6年は「割合」「分数と小数」「小数の計算」の問題の正答率が低い。計算の正確さや数の仕組みについての理解が不十分なため、改善していく必要がある。	5年は「簡単な割合」「面積」「折れ線グラフと表」、6年は「割合」「平均」「多角形や円」についての問題の正答率が低い。単元終了後の定期的な復習が不十分であるため、改善していく必要がある。	量感を養ったり、比べたり活用したりする経験が不足しているため、改善していく必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>具体物を操作することで数量に関するイメージをもたせ、理解につなげられるように指導を行っていく。</p> <p>中学年の学習にスムーズに入れるよう、繰り上がりのたし算の筆算、繰り下がりのひき算の筆算、かけ算九九の練習を繰り返し行い定着させる。</p>	<p>文章問題の立式が苦手な児童が多いため、問われている箇所に線を引いたり、図をかいたりしてから式を立てるようにする。</p> <p>また、筆算の仕方などについて、形式的な手続きの理解に偏らないよう、ブロックなどを活用して思考力を深める。</p>	<p>導入場面で実生活に即した発問を設定したり、算数的な活動を計画したり、具体物を用いて学習を進めるなど、児童の興味・関心を高める工夫を凝らした授業展開をしていく。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>九九の定着が不十分な児童がいるため、授業や朝学習、宿題などを通して、九九を含めた計算の反復練習をしていくことで定着を図る。</p> <p>二次元表は学級活動など日常生活の中でも活用する機会を設け、それを教材として繰り返し指導していく。</p>	<p>かけ算に限らず、問題解決の場面を多く設定することで、問題把握の力を養っていく。</p> <p>「時こくと時間」は、日常生活の中で意識させることで慣れるようにしていき、授業に実際の生活場面を取り入れるようにしていく。</p>	<p>繰り上がりや繰り下がりのあるたし算やひき算など、低学年の内容にも定期的に取り組む時間を、短時間でも授業に取り入れ、継続していくことで、より正確に計算できるようにし、自信を育てていく。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「分数」「小数」の指導においては、特に系統性を意識した指導をしていくことで、小数と分数の関係性など、より確かな理解と定着を図っていく。</p> <p>「折れ線グラフと表」は理科や社会など他教科と関連させながら適宜指導していく。</p> <p>「割合」は、数直線の指導を徹底することで、正しい立式ができるようにしていく。</p>	<p>「割合」「折れ線グラフと表」「平均」などは、日常生活の中で積極的に活用していくことで、見方や考え方を育てていく。また、日常のデータを授業で扱うことで、それらを活用する力を育てていく。</p> <p>自分の考えを式にして伝えたり、式から考えを読み取ったりする場面を意識的に設けることで、これらの力を伸ばしていく。</p>	<p>調べたり比べたりする活動を増やすとともに、常に見当をつけたり予想を立てたりしてから取り組むことで、豊かな量感を育て、関心意欲を高めていくようにする。</p> <p>「折れ線グラフと表」「平均」などの授業では、日常のデータや他教科の資料などを教材として活用することで、自らの生活と関連させながら学んでいく姿勢を育てていく。</p>

令和3年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 昨年の課題に沿って実験計画を立て、器具の操作をし、結果を明らかにすることで、全体の交流の通し考察した単元では、知識の定着が図れていた。

(2) 課題

- ・ 自然現象や実験への関心はあるものの、基本的な知識や理解は結びついていない。
- ・ 理科で学習した用語や実験器具の名前、その使い方の理解につまづきが見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第4学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	/	/
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)	/
第6学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第5学年時)	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも高い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
概ね目標値を上回っているが、「磁石の性質」についての正答率のみ、目標値より下回っている。 電気を通すものと磁石につくものが混同していることが要因の一つだと考えられる。	目標値を上回っている。「磁石の性質」と「電気の通り道」について、実験の結果から分かったことを整理し、考察することに課題がある。	概ね良好であるが、「磁石の性質」において、下回っている設問があった。学んだことを生かして活用問題に取り組んだり、日常生活と関連付けて考えたりする必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>天気の様子や水のはたらき、動植物に関する問題の正答率が低い。観察や実験をする意義や方法を理解させ、日常生活と関連付けさせて定着を図っていく必要がある。</p>	<p>知識を活用したり、技能を使ったりして、考察したり表現したりすることが十分ではない。また、得た知識を基に他の事象や生活と関連付けて考えられる活用力の定着が不十分である。</p>	<p>実験の問題に対しては正答率がおおむね良好であるが、動植物を観察する問題に対しては正答率が低くなっている。観察の単元は、すぐに結果が出ないため意欲の持続が途切れるところに要因がある。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>観察を行う前に、観察の方法や、注意点についてしっかりと指導し、知識として定着させる必要がある。 重要語句や資料を掲示し、定着を図る。 普段の生活や自分の体験と結びつけ、実感を伴った理解を目指す。 実験の過程から得られた結果を分かりやすく記録させるために、ワークシート等を活用する。</p>	<p>予想や考察を自分で考え、表現する活動を充実させる必要がある。文章だけでなく、絵や図、表なども必要に応じて用いながら、ノートを書かせたり、自分の考えを整理し、友達と伝え合ったりする機会を設ける。 また、このような活動に意欲をもって取り組めるように、児童が問題意識をしっかりともてるような導入の工夫も必要である。</p>	<p>児童にとって、見通しがもてるような学習の展開を工夫し、単元の導入などでは適切な資料を用意していく。 体験的な学習をなるべく多く取り入れるようにするなど、自分事として考えられるようにする工夫が必要である。</p>

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実験器具の名称を正しく覚えさせ、使い方を正しく理解させる。 観察・実験の方法を考え、実験結果の見通しをもつことができるようにする。 重要語句や資料を掲示し、定着を図る。 実感を伴った理解を目指し、日常生活との関連を示したり、考えさせたりする。</p>	<p>予想を立てる際は、生活経験から根拠のある表現をさせるようにする。 実験で変えるものと変えないものの条件を確実に理解させ、ノートに整理させる。 実験から分かったことをまとめ、そこから分かったことや考えたことを表現する時間を十分にとる。</p>	<p>単元の導入時には、実際の生活と関連付け、観察や実験等の直接体験を重視した内容や学習を展開し、身近に起こっている日常生活の事象と関連付けて授業内容を工夫していく。</p>

1. 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率

	令和3年度結果
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い

(2) 分析（観点別）

① 6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと、読むことは目標値を上回ることができているが、書くことについては目標値を下回っている。とくに、アルファベットの小文字を書くこと、アルファベットを聞いて書くことの正答率が低い傾向にある。	目標値を若干下回っている。短い物語を聞き、話の概要を捉えることや例文を参考にしながら、第三者について簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことを書く問題での正答率が低い。	目標値と同等程度である。英作文を書く問題で無回答の児童は、基礎問題の正答率が低い。既習事項の定着が不十分であるため、主体的に学習に取り組めていないことが考えられる。

3. 授業改善のポイント（観点別）

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
デジタル教科書や絵カードを活用し、アルファベットの音声と文字を一致させる。また、プリント練習などを通して、アルファベットの定着を図る。	デジタル教科書や絵カードを活用したり、外国語講師による発声を繰り返し聞いたりするなど、十分に聞く活動を行う。	基礎の定着を図り、苦手意識を取り除く。活動に意味付けをしたり、具体的な場面を設定したりして、主体的に学習に取り組めるようにしていく。

令和3年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身近な植物を育てたり動物と触れ合ったりする活動を通して、生き物への関心が高まり、命を大切にすることが芽生えた。校庭の周辺や裏庭の自然環境を活かして、草花遊びや虫の観察、草花を育てるなどの活動ができた。
- ・友達や教職員、学校や地域を支えている人々と触れ合う機会、1・2年の交流の場の設定、夏休みや冬休み等を利用した家庭での手伝い活動等を設定することで、自分達は多くの人に支えられていること、家族や学校の一員であることに気付くことができた。また自分の成長にも気付くことができた。

(2) 課題

- ・年間指導計画を毎年見直し、学校行事や地域の行事等と連携を図ったものにする。身近な植物や動物との触れ合いの活動を意図的に設定し、観察の方法等を提示して児童の気付きの質を高めていくための工夫が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くことができるよう、観察や栽培・飼育、学校や家庭・地域等と関わる活動などを2年間を通して系統的に行う。また、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせることができるよう、指導内容の明確化及び学習活動の工夫改善、発問や指示の精選を行う。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりにおいて捉えることができるよう、見学や栽培・飼育、体験的な活動を計画的に取り入れる。また、それらを通して自分自身や自分の生活について考え表現することができるよう、学習活動の工夫改善、表現方法の多様化、交流活動の充実を図る。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしようとするために、学校や家庭の生活、地域や公共物・公共施設に関わったり利用したりする活動、身近な自然を観察したり利用したりする活動を取り入れる。また、進んで触れ合ったり自分の生活に取り入れたりしようとする学習活動を継続的に取り入れていく。

令和3年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・めあてを明確にし、毎時間児童がふりかえることで、意欲の向上につながった。
- ・スモールステップで、技能の指導を進めることで、苦手意識をもつ児童が減少した。
- ・歌唱表現の工夫を考える活動や、鑑賞、音楽づくりの活動を充実させたことで、思考力が高まった。

(2) 課題

- ・毎時間のめあては明確できたが、題材を通しての学習の見通しはもてていない。
- ・技能の個人差があり、技能が高い児童への対応が不足している。
- ・感染症対策を行いながら、学習に必要な技能の習得を目指す。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
演奏する時の姿勢や、鍵盤ハーモニカの運指、タンギングなど、一つずつ丁寧に指導する。一人ずつ演奏する場面も必要に応じて設定する。	音の高さや楽器の音色、大きさのちがいなど、感じ取るめあてを分かりやすくし、発問も工夫する。	音あてやリズムうち、身体を動かす活動を取り入れることで、音楽を楽しみ、興味・関心をもてるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
常時活動で、よい姿勢や発声等、基本的な技能に必要なポイントを分かりやすく指導していく。また、技能の習得は、スモールステップ方式で進め、技能に合わせて課題を選択できるように準備する。	自分の考えをもてるように、思考に必要な音楽の要素を表す言葉や、交流の時に必要な話型の例を提示するなど、言語活動の充実を図る。	前時のふりかえりを交えながら、学習を進めることで、意欲の向上や継続を図る。また子供自身のふりかえり活動充実させ、次の学習につながる評価や助言を行う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
常時活動やワークシートを通して、拍の流れやリズム、フレーズ、強弱記号など基礎的な知識の定着を図る。また姿勢や発声等の技能の習得に必要なポイントを継続して指導する。	タブレットを効果的に取り入れながら、個人やペア、グループの考えを共有し、いろいろな考えのよさを確かめ合っていく。またいろいろな考えを、実際に表現して試しながら、対話的によりよい表現を実感できるようにする。	毎時間のめあてを明確にするだけでなく、題材を通して学習の流れを示し、前時の学習をふりかえりながら、学習の見通しをもてるように工夫する。児童1人1人の演奏や発言に対して、積極的に評価や価値づけ、助言をきめ細やかに行う。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・意欲的に取り組み、伸び伸びと楽しみながら取り組む児童が増えてきた。
- ・様々な材料に出会い、積極的に自分の色、形、イメージを表現できる児童が多くなった。

(2) 課題

- ・意欲的に活動する児童が多いが、個人的な能力差やこだわりの強い児童など、主体的に活動ができない児童もみられる。
- ・個人差やこだわりの強い児童に対応できるように、材料や用具の整備や児童が活動しやすい環境を整える。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れることができるよう、学習活動や指導順序などを工夫改善する。また、並べたり、つなげたり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくったり表したりすることができるようにする。	形や色などを基に、自分たちのイメージをもちながら、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を行ったり、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けたりできるように、児童の発想の広がりや場の設定、学習活動を工夫していく。	多様な材料、用具に触れさせたり、児童が関心をもちやすい題材を設定したりする中で、児童が楽しみながら主体的に活動に取り組むことができるようにする。また、自分たちの作品を見合う活動を通して、良さや面白さを感じ取ることができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童が思いや願いを大切にしてい、児童が取り組みやすい材料や用具を準備する。それらを児童が進んで使い、知識や技能を深めながら、表現を工夫できるようにする。	様々な材料や表現方法と出会い、豊かな発想をしながら、思考、判断を深める。そして、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもって表すことができるよう児童の発想の広がりに対応する。	様々な材料や用具の体験を行い、さらに楽しんで主体的に活動できるようにする。また、作品を作る過程で、自然と友達の作品や身近な美術作品を鑑賞し、よさや面白さを感じ取る場を大切にする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>児童が自分の表したいことに合わせて、使いたい材料や必要な用具の特徴を生かせるように授業の準備をする。そして、前学年までの経験を生かしながら、さらに知識、技能を深め、工夫して表せるように環境を整える。</p>	<p>形や色などの造形的な特徴を基に、児童が自分のイメージをもてるように、様々なテーマや表現方法、材料などを準備していく。そして、児童が思考や判断を深められるように、場の設定や支援の方法など工夫していく。</p>	<p>児童がこだわりをもって自分の表現ができるように題材の設定の工夫や材料、用具の準備をし、無理のない授業時間の設定などをする。また、それまでの造形活動の体験を生かしながら、自分の見方や感じ方を大切にし、さらに自分らしい表現を主体的にできるように授業計画を立てる。また、自分たちの作品や親しみのある作品などに出会い、よさや美しさに気づき、感じ取れるようにする。</p>

令和3年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習事項の反復を行ったことで、実技の習得の差が目立たなくなった。
- ・模型を作成したことで、作品作りの順序を見通し、円滑に製作を進めることができた。
- ・日常での課題をふり返ることで、集中して学習に取り組めるようになった。

(2) 課題

- ・生活経験に差があるため、学習内容の定着にかかる時間も差があった。
- ・手先を使うことが苦手な児童がいるため、日頃から指先を使う作業を取り込む。
- ・向上心を保たせることが難しい。

2 授業改善のポイント（観点別）

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習の際は、道具の扱い方の基礎の学習に重点を置き、必要な技能を習得させるとともに、既習事項の反復を行う。 ・ 基礎基本に時間をかけ、最低限の技術を身に付ける。 ・ 個別指導を通して、基礎基本の定着を図る。 ・ 家庭科学習ノートを有効的に活用する。 ・ 継続的に反復して学習することで、学習を確かなものにする。 ・ 家庭科用語の定着を図るため、用語の確認を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手本や他の児童の作品を提示することで、多様な考えや工夫に触れさせる。 ・ 製作準備として、紙や布で模型を作ることで完成品を想像し、計画を立てやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の普段の生活から問題意識をもたせ、課題解決に向けた学習を行う。 ・ 電子黒板を活用して指示・内容を明確にし、意欲の継続を図る。 ・ 映像や動画を見せることで、学習内容の汎用性を児童に伝える。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「ハッスルタイム」で行った影響で、短縄跳びを意欲的に取り組むことができた。
また、様々な技に挑戦する児童が増えた。

(2) 課題

- ・自分に合った課題を設定し、解決していく力に欠ける。また、課題解決のための手立て（場の工夫・練習方法）を自ら考え、実践していくことが難しい。
- ・投力に課題が残るため、「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用などを行っていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>各領域の遊びの特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。 準備運動の中に、リズム遊びや鬼遊びなどを取り入れ、楽しみながら、身のこなし方や様々な運動感覚を養っていく。 体育朝会やハッスルタイムと連携して授業を行う。</p>	<p>自分に合った動きや遊びを選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。 友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。 児童に「どこに気を付けて行ったか。」等、コツを発表させる機会を多く設ける。</p>	<p>単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるような学習資料を用意する。 簡単なゲームや遊びを導入時に取り入れ、楽しみながら学習を進められるような授業を展開していく。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。 準備運動の中に、体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動を取り入れ、様々な運動感覚を養っていく。 体育朝会やハッスルタイムと連携して、走る運動や投げる運動を行うようにする。</p>	<p>自分に合った動きや運動を選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。 友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。 友達や教師からアドバイスしてもらい、自分から聞いたりするなどの機会を設け、自己の課題を見つけたり、解決したりする力を養う。</p>	<p>単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるように資料を用意し、児童の関心が高まるような手立てとする。 友達とペアやグループを組むことで意欲的に取り組み、決まりを守って、誰とでも仲よく運動をしようとする意欲を高める。また、友達同士で認め合える環境や場を設ける。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に運動が行えるようにしていく。準備運動の中に、補助運動を取り入れ、年間を通して、様々な運動感覚を養っていく。体育朝会やハッスルタイムと連携して、走る運動や投げる運動を行うようにする。「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用を行う。</p>	<p>自分に合った運動や場を選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。</p> <p>友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。</p> <p>自分やグループの特徴に応じた動き方を知り、その特徴に応じた取り組み方や作戦等を考えるようにしていく。</p>	<p>単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意する。毎時間、自分のめあてを設定し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにしていく。</p> <p>自分事として考えることができるような学習活動を行っていく。また、友達同士で認め合いアドバイスし合える環境を作り、課題をもって取り組めるようにしていく。</p>